

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 <http://www.j-kana.or.jp/> email: info@j-kana.or.jp

1

January, 2015

vol. 394

Contents

会長年頭御挨拶...01

神事協フェアレポート・全国大会レポート...02

建築探訪...03

支部だより...05

旅行記...07

委員会活動報告...09

編集者のつぶやき...10



謹 賀 新 年

本年もよろしくお願ひいたします



『年頭挨拶』

一般社団法人
神奈川県建築士事務所協会
会長 小林 忠志



1 新年あけましておめでとうございます。
2015年の年頭にあたり、慎んで新春のお慶び
を申し上げます。また、旧年中は当協会に多
大なるご厚情を賜りましたことに対し会員始
め行政、関係団体の皆様にはこの誌面をお借
りして厚く御礼申し上げます。

当協会も一般社団法人となり2年が経過し、
新執行部体制も2年目となりました。今年度は
役員改選時の年となりますが私が会長就任時
の目標としてオール神事協体制の構築、財務体
質の改善、会員増強を掲げましたが会員増強
を除き少しずつではありますが成果を上げつ
つあります。これも支部長、各委員会の皆様の
御協力の賜と感謝申し上げる次第です。会員増
強はなかなか実績が上がりませんでした、
残りの期間で全力を尽くしていく所存です。

しかしながら常に改革を行わなければ組織
は衰退していきますので今年より事務局の質
的向上、報告の徹底を行い支部長の皆様にも
積極的に本会の運営に携わって頂くため、支
部長会を組織運営の上位に位置づけたい考
えです。委員会の運営もより合理的な運営を
目差し、一部改組することも考えております。

さて、日事連、士会連合会、建築家協会の
共同提案として議員立法で建築士法の改正が
6月より施行される運びになります。このこ
とにより建築士事務所の社会的地位の向上が
図れるものとなりますが、建築士、建築士事務
所の社会的責務が増し、より一層の法令遵守を
徹底する必要を自覚しなければなりません。
経済的には消費税増税もあり、我々の業界は
苦しいのが現状です。しかしながらこんな時
だからこそ会員の皆様には是非当会を積極的
に利用して新しく的確な情報を共有して会員
間の健全なネットワークを構築して事務所の
足腰を鍛えて下さい。又、耐震改修促進法改
正等により、本会も建築防災協会より委託を
受け耐震相談窓口を設置し、現地耐震相談事
業を展開しておりますので、会員に於かれて
も是非この制度を活用下さい。

私も会長として一期目が過ぎようとしてお
りますが、今後とも会員、役員、行政、関係
団体の皆様には絶大なるご支援をお願い申し
上げます。

最後になりましたが皆様のご多幸を祈念し
て年頭の挨拶とします。

「みらいふれあいフェスティバル」1日目

広報情報委員 森 雄治

「みらいふれあいフェスティバル2014」が11月14・15日（土・日）にワールドポーターズで行われました。「防災・省エネの住まいづくり」をテーマに、無料相談コーナー・賛助会員による各種展示・意見交換会・講演・講習会・セミナー等が開催されました。1日目は賛助会技術提供セミナー・女性開設者・管理建築士の「設計事務所のコラボレーションを考える」意見交換会・講演「高齢者が住み続けるためのエコリノベーション」・消費者向け建築相談・「建築基準法適合状況調査のためのガイドラインに基づく業務について」講習会が行われました。賛助会員の展示ブースには一般の方々も含め多くの方が来られ

スタンプラリーをしながら楽しく見入っていました。セミナー・意見交換会・講演・講習会では皆さん興味深く聞き入り、活発な意見交換をしていました。設計事務所や建築士の専門知識を生かした社会貢献や提案をするため、ますます私たちの仕事の重要性を認識するよいきっかけになったかと思います。



「みらいふれあいフェスティバル」2日目

広報情報副委員長 小泉 厚

立冬を過ぎたとは思えない、快晴の暖かい11月3週目の土曜日、多くの人で賑わう、みなとみらい・横浜ワールドポーターズで開催されました「みらいふれあいフェスティバル」をレポートします。

2日目の午後のセミナーは「木造耐震の調査と補強方法実践編」と題し、棕副会長を講師として、多くの出席者のもと、一般診断法の日頃気づかない問題点や疑問点そして注意事項等を解説していただき、また後半では実践を踏まえた事例解説が行われました。

別会場では住・緑・家運営専門委員会による、最近の自治会館(3施設)のコンペ提出案(得点講評)が展示されており、各々のコンセプトや計画及びプレゼンが比較でき、各作品の独自性お

よびレベルの高さが伺えました。2部では当選設計者3人とコンペお申込者によるパネルディスカッションが行われ、設計者の自治会館への考え方や姿勢、そしてコンペお申込者から当選に至った経緯を話として聞くことができました。

また、出展開場では20社の賛助会の方々に参加していただき、新たな製品や情報を直接説明していただくことで、カタログからでは得られない情報を得ることが出来ました。

最後となりましたが、関係者の皆様、お疲れ様でした。



第38回建築士事務所全国大会 レポート

平成26年10月3日、第38回建築士事務所全国大会・「建築士法改正の感謝の集い」が帝国ホテルにて開催されました。本会からは、平成26年度年次功労者表彰を、川崎支部上原伸一氏（前会長・(有)上原建築設計事務所）と鎌倉支部中村正昭氏（(有)中村正昭一級建築士事務所）が受賞されました。



「建築士法改正の感謝の集い」には、国会議員、来賓及び構成員等700人を超える方が参加されました。

右：上原伸一氏
中央：小林会長
左：中村正昭氏

建築探訪

大山参り（大山紀行）

平塚支部 新倉 良一

大山駅から下社までケーブルカーで達せられる。古来信仰登山で知られる。もともと箱根御嶽山、三峰山などとともに、修験道の中心地であった。江戸時代真言修験に統一され大山不動を中心として、江戸をはじめ関東一円の信仰を得て登拝講社が発達した。



下社参道

阿夫利神社

もと石尊権現といい大山寺（だいせんじ）とした。阿夫利山 標高1246mの頂上ではよく雲や霧がたちこめ、まもなく雨を降らすので雨降山の名が起こったのであろう。

高野山真言宗に属する「おおやまでら」ともいい雨降山と号す。一時その主坊の名によって明王寺ともいい、俗に石尊権現、大山不動の名でしられる。



大山寺

755年（天平勝宝7年）良弁（ろうべん）が山を開いて石尊権現と不動尊を安置したのがはじまり、鎌倉初期には源頼朝の帰依を受けて栄えたがのちいちじるしく衰微した。



大山寺参道

文永年間（1264～75）願行（がんぎょう）が中興して諸堂を造営し以来、足利氏、小田原北条氏、徳川氏らに尊崇されて八大場、13坊を有する大寺になり民衆の信仰を集めていわゆる大山詣（もうで）が盛行した。明治維新の神仏分離で、阿夫利神社に改められ本堂の不動尊は別堂に安置されるにいたった。大山信仰はいまに盛んで、門前町もよく旧態を存し京浜の観光地になった。

その信仰の中心は奥宮の石尊大権現の本体である石剣にあった。江戸からの参拝人は両国の



阿夫利神社本社

東所で水垢離（みずごり）をとり、大願成就と墨書きした木太刀を捧持して登山し、前回に奉納した太刀と取り替えて持ち帰るという風習がある。江戸から18里、登り3里という距離が江戸人をここに惹きつけた。



阿夫利神社下社



阿夫利神社下社（3）

今回、大山参りをしてみると、参道の手前にいろいろな店舗の門前町が発達しているのがわかる大山ケーブルカーで大山不動尊を見るために下車すると、参道は静けさに満ちて心も引き締まる。いまでも御祈祷する人がたえない。

大山不動尊を過ぎて次の阿夫利神社下社にお参りする。頂上に向かって上り坂の登坂道を阿夫利神社本社へと向かう。精が切れるほどの山道を登ると本社に到着する。山頂から見る湘南方面、江の島、三浦半島の雄大なながめは圧巻である。



頂上からのながめ

帰りに門前町の一角で名物の大山豆腐を湯豆腐でいただくことにした、寒いなか参拝をしたので身体が温まる。お酒と湯豆腐の料理は格別である。



阿夫利神社下社（2）

支部だより 横須賀支部だより

真新しい頁が開かれました。今年はどんな色で描かれるのでしょうか。

昨年は自然災害が多く発生した年でした。おまけに年末の選挙と何かと慌ただしく、あっと言う間に時が過ぎ去っていきました。今年は平穩無事で、大いに社会に貢献し、儲かる建築士事務所になりたいものです。

横須賀支部はかつて100社を超える会員がいましたが現在は51社です。予算は厳しい状況ですが、2代目や若い会員が増えたおかげで、和気あいあいの雰囲気で行っています。これは日々、役員を始め、総務・財務委員の支えがあってこそと思っています。

横須賀は建築士会横須賀支部とミーズ設計連合協同組合で三会を構成し、賀詞交換会や横須賀優良設計事務所（湘南三浦支部も参加）、よこすか景観協議会、よこすか産業祭、夏のBBQなど公式イベントから勉強会など精力的に活動しています。

活動は耐震診断業務を始め、6月に「ふれあいフェスタ」に参加、福祉住環境委員会が担当。隔月ごとに消費者センターと相談委員会が提携し消費者の建築相談に応じています。勿論、電話等の苦情や建築相談も日々対応しています。またいち早く「若手の会」を創り、未来の設計業界を背負う若者を暖い目で見守っています。



横須賀支部 増田 務

昨年夏、初めて「うわまち灯籠まつり」に参加しました。道行く人にパンフレットやポップコーンを渡し、多いに建築士事務所をアピールいたしました。

今年は商店会の人たちと早い段階から企画に参加し、大いに盛り上げて行きたいと思っています。また、建築士事務所の壁を借り、建築士事務所の仕事を作品を通し、通年アピールしていきたいと思っています。



よこすか産業祭



うわまち灯籠まつり

支部だより 相模原支部「建築・住まいるフェスタ」のご報告

相模原支部 杉本 勝郎

さる平成26年11月1日2日。恒例となった「建築・住まいるフェスタ」を開催致しました。今回は相模原市市制60周年と言うこともあり、相模原市商工会議所が主催する 潤水都市さがみはらフェスタ2014に参加する形での開催です。場所は米軍相模原補給廠の一部を借り受け広大な敷地の中、所狭しと80張り以上のテント、特設ステージ、15店舗のラーメンゾーン、JAXA（宇宙航空研究開発機構）による「はやぶさ2」の模型展示等がひしめき合うような状況でした。



折悪く初日の土曜日は雨天の為来場者数にも陰りが見えましたが、翌日曜日は薄曇りの天気となりたくさんの来場者を迎えることが出来ました。

わが相模原支部も、例年のごとく相模原市と横浜弁護士会相模原支部と共催のブースを設け、まちづくりに関するアンケート、建築相談を行いました。今回は弁護士、行政職員と連携の上



相談にあたるなど得難い経験も得ることが出来ました。



恒例となったピエロによるアトラクション、バルーンアートは、子供たちの行列が絶えず、その間に保護者にアンケートを記入して頂くなど楽しい中にも色々な声を集めることが出来ました。また今回作った支部の法被（はっぴ）の評判は上々だったのも申し添えておきます。



例年20万人規模の来場者のあるこの催しものに参加したことは、より多くの人に接することが出来、事務所協会の情報発信の為にも非常に良い結果を得ることが出来ましたので今後も続けたいと思っています。

旅行記

紅葉を求めてみちのくを走る

座間支部 清水 康弘

夢心地のなかふと目が覚め時計を見ると午後6時。しまった、5～6分寝るつもりが1時間も寝過ごしてしまった、ここは東北道下りの福島県安達太良SA。

趣味であるバイクに乗って明日、明後日全走行距離1800kmあまりの東北紅葉ツーリングに向けて最近開通した圏央道厚木ICに入ったのは今日(金曜日)の昼過ぎだった。

今日中に集合場所である岩手県北上市まで着かなければならない。

その距離約530km。集合は土曜日午前8時だが間に合わないので前日に出てきたのだ。

仲間の中には仕事を終えてそのまま徹夜で関東から走ってくる猛者もいるが、到底真似出来ません。さて、充分すぎるくらい寝てしまったので安達太良SAを出発する。もう7年くらい5月と10月に 東北に通ってるなー。

夜の東北道一人音楽を聴きながら坦々と走り、午後9時過ぎに北上ICを降りた。SNSでの仲間の行動はいつも同じで、先に着いているもの同士楽しそうに前夜祭をやっている。

寝過ごさなければと悔やむが仕方ない。

ようやく北上のホテルに到着。明日に備えて早めに就寝。

明けて土曜日。30km先の集合場所東北道花巻PAへ向かうが朝から小雨模様、晴れて欲しい。

AM7:30に到着。すでに十数台が集まっている。東北、関東、中部、北陸、遠くは京都から参加していて年齢職業もバラバラ、50代が中心で総勢30数台。

5分程度のブリーフィングの後スタート、天気も良くなりそう。

さあこれから、東北の紅葉を満喫します。

バイクにはそれぞれ無線機が積んであり、道路状況や休憩など全て無線で伝わるので、昔のように大声で話すこともありません。

このツーリングの船頭(企画者)はみちのくのマイスターと言われるお方で、東北の道に精通しているから我々については行くだけ、迷子になったらその場でお別れです。

まあ無線があるので大体は合流出来ちゃいます。

高速道から一般道の岩手路に入っていきます。最初にコース説明がありますが、聞いてもほとんど無駄です。県道、町道、農道、林道それに地図に載ってない路を右に左に走り回るため、後でナビの軌跡

を見てああここを走ったのかと分かる程度です。

岩手の南側中央あたりから入り、縦断する形で徐々に北上し、紅葉の中を走り回ります。ほとんど我々しかいません。地元の方もあまり見ることはありません。エンジンを切ると静寂が広がり聞こえるのは風になびく木々の葉音だけ、紅葉を独占です。

この旅では観光地らしいところには行きませんが、一切寄らない変な旅なのです。

それにしても岩手は広いです。町や村や高原をひた走ること約100km、この間信号機無し。もちろん船頭(マイスター)がそんな道を選んで走っているのです。

途中、所々で休憩を兼ねて自然の美しさを心ゆくまで堪能しました。

遠野、荒川高原、早地峯を経て岩泉町の龍泉洞近くのパーキングで昼食。

ほとんど山の中なので、朝コンビニで買ったおにぎりでピクニック気分の食事です。

食事も早々に今日の宿泊地盛岡に向けて午後の再スタート。

岩泉から又々山中を走り、久慈で海岸線に出ました。東北震災直後の5月に来たときは津波の凄さに圧倒された状況でしたが、徐々に復旧が進みつつある様ですね。

野田村あたりか?三陸鉄道の駅はアマちゃん効果もあり観光客で溢れていたが(ここも通過する)途中トイレ休憩のため今回唯一の観光地、太平洋岸リアス式海岸の絶景地「北山崎」に立ち寄った。さすがに観光地、大勢の観光客が来ていました。

一般の方からするとライダーウェアに身を包んだ姿は異様に見えるのでしょうか。

ヘルメットを脱げば白髪と光り輝く頭のオッサンばかりですからなおさらか(女性も数名いますが)。

北山崎を出るとすぐ又岩手山中へ入っていく。この船頭さん、天候や状況によりコースをどんどん変えていくから朝のブリーフィングで言ったことはあって無いようなものなので、

ただひたすらついて行くのみです。でもその先には素晴らし光景が待っています。

秋のつるべ落としと言いますが、午後3時を廻る頃は日もだいぶ落ちてきて、そろそろ帰るのかなと思ってもそうはならないところがこの旅の醍醐味。

観光客はまず行かない岩手山を一望する天峰山へ、
夕焼けを背にした岩手山は美しい一言です。

夕方5時頃今日の宿泊地盛岡に到着。夕食は盛岡
冷麺老舗の「食道園」気の合う仲間同士なので盛り
上がります。今日の走行400km余り。

翌日曜日、朝7時スタートです。ホテル前を静か
に出て(でもちょっとうるさい)今度は北北西方向に進
み八幡平、雫石を周遊。秋田県境に近い県道を南下し、
今回のツーリングの解散地「巖美溪」を目指す。途中
道沿いの紅葉を愛でながらみちのくの秋を楽しんだ。

午後1時過ぎに巖美溪道の駅に到着。巖美溪には
10回くらい来ているが、一度も「巖美溪」を見たこ
とありません。自慢にもなりません。

「ここで解散」と言われてもここから自宅までま
だ500km以上あるのです。

高速の渋滞を駆け抜けて、午後9時過ぎに帰宅し
ました。

只走っているだけでしたが、岩手の自然と食と人
とにふれ合うことができ、又行きたいと思う気持ち
が沸きあがるみちのく旅でした。



荒川高原の馬



盛岡冷麺



自分の中の東北の入口(利根川に架かる橋)



紅葉



荒川高原



紅葉

委員会活動報告 ～「今だから言えるシリーズ第1回茶室編」～

企画副委員長 梅原 義信

企画委員会では「今だから言えるシリーズ」と題し、テーマを設定し、それに対して経験豊富なベテラン会員に講師になっていただき、その体験談や実演等をしてもらう講習会を企画しています。

9月26日はその第1回として「茶室」をテーマに場所を三溪園とし、実際の茶室を使用して「茶室の講習」、「体験(お茶会)」、「茶室の見学」を行ないました。



林洞庵にて

講習は8人以下のグループに分かれ、それぞれを40分単位で受講しました。

「茶室の講習」は川崎支部で相談役の上原伸一氏に講師をお願いし、林洞庵の小間において茶道、お茶会、茶室の構成、茶室設計の経験談を講義していただきました。

経験談では自邸の水屋、茶室まわりの1/5の詳細図を使用しての解説がありました。

「体験(お茶会)」は、横浜支部の名取邦亨氏に席主をお願いし、ベテランのお手伝いの方々に協力をしていただき、林洞庵の広間にてお茶会をひらきました。

掛け軸、お花、季節のお菓子、そして貴重な茶器を用意していただき、お茶会では作法やそれぞれの意味、また、お茶を始めたきっかけなどについてのお話もあり、貴重な体験ができました。



小間での講習

「茶室の見学」は三溪園にある茶室の蓮華院、春草廬、金毛窟の3箇所を見学しました。

蓮華院は大正6年の建築で、二畳中板の小間と六畳の広間、土間からなる茶室です。

春草廬は桃山時代の重要文化財で、三畳台目の小間は織田有楽斎の作品と言われています。

金毛窟は大正7年の建築で、原三溪が建てた一畳台目の極小の茶室です。

どれも貴重で美しいものでした。

講習後は林洞庵近くの茶屋で原三溪が考案した汁のない「三溪そば」を食べ、茶室について振り返りました。



お茶会

前日までは雨模様でしたが、講習日当日は天候に恵まれ、それぞれの講習もスムーズに進み、茶室に対する深まった知識は、今後の仕事に十分役立つものと確信しました。

新入会員の紹介

12月1日付け入会者

横浜支部

株式会社トキワ企画一級建築士事務所 坂本 昌己
〒230-0062横浜市鶴見区豊岡町20-7-301
TEL.045-716-9440 FAX.045-716-9446

株式会社梓設計横浜事務所 吉田 公人
〒231-0012横浜市相生町6-104-2 横浜相生町ビル10階
TEL.045-263-8331 FAX.045-263-8332

森谷建築設計事務所 森谷 譲二
〒245-0008横浜市泉区弥生台36-15
TEL.045-810-6887 FAX.045-810-6888

有限会社伊郷設計 町田 政人
〒221-0825横浜市神奈川区反町2-16-2
マックスビル307
TEL.045-324-7326 FAX.045-324-7328

一級建築士事務所株式会社神奈川建物リサーチ・センター 深間 浄治
〒231-0023横浜市中区山下町193-1
昭和シェル山下町ビル3階
TEL.045-227-8471 FAX.045-227-8472

株式会社嘉環境設計一級建築士事務所 杉崎 朋昭
〒221-0852横浜市神奈川区三ツ沢下町3-15
TEL.045-313-1115 FAX.045-312-1385

川崎支部

一級建築士事務所有限会社伊藤寛アトリエ 伊藤 寛
〒214-0038川崎市多摩区生田8-29-13
TEL.044-922-6412 FAX.044-922-6413

秦野支部

滝口建築設計一級建築士事務所 滝口 喜昭
〒257-0011秦野市尾尻952-5-105
TEL.0463-84-7180 FAX.0463-84-7180

退会者

県西支部

有限会社折原建築設計事務所 折原 照

湘南三浦支部

LIFE+ARCHITECT 犬山 直人

会 勢

平成26年12月1日現在

支部名	平成26年3月末日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	254	268	22	8	14
川 崎	108	107	1	2	-1
横 須 賀	51	51	1	1	0
湘 南 三 浦	18	17	0	1	-1
藤 沢	24	23	0	1	-1
鎌 倉	38	37	0	1	-1
茅ヶ崎葉川	18	18	0	0	0
平 塚	22	21	0	1	-1
秦 野	19	20	1	0	1
伊 勢 原	8	8	0	0	0
大和綾瀬	20	19	1	2	-1
厚 木	32	32	0	0	0
座 間	12	12	0	0	0
海 老 名	15	14	0	1	-1
愛 川	8	7	0	1	-1
相 模 原	79	77	1	3	-2
県 西	47	42	1	6	-5
合 計	773	773	28	28	0
賛助会員	78	78	8	8	0

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。

編集者のつぶやき

11月16日(日)鎌倉支部において開催された「仕事展」を拝見しました。毎年欠かさずお邪魔し、展示されている図面や模型等をじっくり目にしておりますが、毎回心打たれる物を感じます。

今回は、25事務所が参加しており、その内会員外は、9人いらっしゃるそうです。後日談ですが、その内の1事務所が当協会に入会した話を耳にしています。

今年は、ほとんどと言っていいほどの事務所が、自分の設計事務所のプロフィールをシート、冊子等にとてもきれいにまとめて作成され、見学者に配られていました。私もほとんどを手にとってしまうほど美しいものばかりでした。当然自費であり、いかに自分をPRしようかと工夫が施されており、すがすがしさを感じました。

大変内容の濃い展示会ということで、毎年この「仕事展」を楽しみにしておりますが、来年の開催も大変期待をしておりますし、鎌倉支部の皆様には心からエールの拍手をお送りいたします。

さてこの後、葉山に建築されている、まほろしの遠藤新 昭和2年作品「加地邸」(今まで未公開)で藤村照信氏のシンポジウムがあり、葉山に移動しました。

加地邸についても皆様にお読みいただきたいと思います。紙面の関係で別の機会に掲載させていただきます。

【芝 京子】



かながわ 平成27年1月号(通号394号)

発行 平成27年1月1日(奇数月1日発行)
発行人 小林 忠志
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 第3不二ビル2F
TEL. 045-228-0755/FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

・担当副会長 芝 京子
・広報情報委員長 白川 正孝
・広報情報副委員長 宮寺 透雄 小泉 厚
・広報情報委員 森 雄治 恩田 耕爾 棚橋 由佳
・新倉 良一 坪井 教一 杉本 勝郎
・事務局 小林 恵美



今月の表紙

三溪園 蓮華院

まだ日差しには暖かみを感じる初冬のある日、夏に続き三溪園を訪れました。

青々とした竹林と苔むす老木の先に本号 委員会活動報告でも紹介された茶室「蓮華院」がたたずんでいます。閑寂・清澄な世界、あるいは枯淡の境地をあらわす「わび・さび」に若輩ながら触れたような気がしました。



一般
社団法人

神奈川県建築士事務所協会

Kanagawa Architect Office Association